



## 時代の変化とその対応

(4月のごあいさつ)

平成 29 年 4 月 1 日 (土)

4 月は、日本人にとって物事の始めという感が強くします。

**春秋時代** (BS770~BC403) 初期に、中国に存在した王国は約 200 国であった。**戦国期** (BC403~BC221)、それは**適者生存の法則**が冷酷なまでに貫徹された時代であったが、7ヶ国にまでなった。時代の変化に対応できたものは生き延び、それができなかったものは滅びた。はじめ西方僻地に存在し、諸国から蛮族扱いされていた**秦**がついに天下を掌握するに至った。「**史記・六国年表**」において**司馬遷**は、これを**天の摂理**と言っている。秦は、時世の変化・進展に対応して、その統治の法を変えて行ったのである。

**戦国時代**を勝ち抜くには、国王の強力な指導力が必要であり、国王の手に経済力と軍事力が集中する必要がある。秦は、中央集権を実現するために王族、世襲貴族の特権を押えて、領国を群県、国王の直害地とし、官僚がそれを統治する**中央集権制度を確立**した。これらの改革を実行したのは、衛の商鞅であり、魏の張儀であり、魏の**范雎**、河南の**呂不韋**、楚の**李斯**であった。彼等はみな秦以外の出身であり、秦の中央集権化は、**他国出身者**を徹底的に活用した**始皇帝**において完全な形をとるに至った。

変化に対応するのは卓越した組織であり、組織を強化するのは人である。一言でいえば、**日本の二つの誤り**は人口減少、市場縮小の**変化を認識せず**、①バブル崩壊に際し、**新陳代謝、淘汰をしなかったこと**と②**増税して歳出拡大**を凶ったことである。変化を認識せず**国の財政危機**を招いたのは人である。

**司馬遷**は言う、世の学者たちは、固定観念にとらわれ、秦王朝が日ならずして滅び去ったがために、その失敗をあげつらい、その治績を真剣に考究していない。これでは、いったいなんのために**歴史を研究**するのかわからない。

1990年代の中頃、アマゾン・コムの創業者**ジェフ・ベゾス**は、「インターネットの利用量は、年間 2300%というとほうもない伸びを示している。これはただごとではない」と感じた。「人間は、**何かが急激に伸びているときに、その意味をとると理解できない傾向がある。**」「**すぐに腰をあげなくてはいけない。切迫感、スピード感のようなものが、大きな強みになる。**」

そこでベゾスは、ネット販売に適していそうな商品を 20 ほどリストアップした。そのなかには音楽やオフィス用品なども含まれていた。だが、やがて**本が最有力候補**として浮上する。